

日時：令和3年(2021年)8月30日(月) 9：30～12：40

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴者：1名

事務局	<p>開会 では、令和3年度第4回宝塚市行政評価委員会を始める。</p>
	<p>市側出席者の報告 企画経営部は事務局が2名、企画経営部長、政策室長が出席している。財政部局からは行財政改革担当部長、行政改革室長が出席している。また、施策の説明のため、宝のまち創造室長、生涯学習室長が出席する。</p>
委員長	<p>傍聴希望者の確認 傍聴者はあるか。</p>
事務局	<p>本日の傍聴者は1名である。 既に入室してもらっている。</p>
事務局	<p>議題 議事録・まとめの確認 ＜第4回議事録・まとめの説明＞</p>
委員長	<p>まとめについて、「雇用・勤労者福祉」の細施策3の「施策の推進・改善について」だが、マッチングの技術を上げていくという表現に違和感がある。</p>
委員	<p>私が発言したと思うが、技術をどうするというよりは、マッチングが大切なのでうまく行っていく必要があるというニュアンスであった。</p>
委員長	<p>この表現についてどう思うか。詳細な表現までこだわる必要はないという意見もあるかと思うが。</p>
委員	<p>私は深くこだわる必要はないと感じる。</p>
委員長	<p>必要ないという意見もあるので、本日は今日の案で修正なしとする。 「農業」の細施策3の施策の「施策の推進・改善について」だが、市民農園についての指摘は、今後は景観的にも良いという発想でも取り組んでほしいということが主な内容であるため、より目立つような表現に修正してほしい。 また、「雇用・勤労者福祉」の細施策2の「施策の推進・改善について」だが、センターは高齢者のニーズに合った仕事を用意していく必要があるという表現は、働く側ではなく、顧客のニーズに合った仕事を用意するというように解釈されてしまう恐れがあるため、働く側のことについての指摘だとわかる表現に修正してほしい。</p>

議題「令和3年度行政評価（令和2年度実施分）について」

委員長

議題「令和3年度行政評価（令和2年度実施分）について」に入る。
事務局より説明をお願いします。

事務局

本日の審議対象施策は、「観光」「文化・国際交流」の施策である。
担当部より施策の説明の後、質疑という形で進める。

担当室長

< 施策の説明 >

< 各施策審議 >

	<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】観光 【施策展開の方針】『1 宝塚歌劇をはじめ、多様な観光資源を組み合わせ、まちの魅力を活用します』</p>
<p>委員長</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により今後の見通しが難しいのだろうが、今年度及び来年度はどのような戦略を考えているのか。いずれコロナは終息し、外国人が再び宝塚にやってくるだろうと考えているのか、見通しが立たないためしばらくは静観していくのか、評価表からは読み取ることができなかった。</p>
<p>宝のまち創造室長</p>	<p>状況は日々変化しており評価表への記載は難しい。長期的に考える必要があるものについては、兵庫県と連絡をとりながら地道に取り組んでいくしかない。観光というのは外貨を稼ぐということも重要だが、その外貨に頼ることができる状況ではないため、まずは兵庫県内、次に近畿圏内と対象を広げる準備をしているところである。</p>
<p>委員長</p>	<p>先は見えなくてもパターンは限られているはずである。評価を通じたアカウンタビリティということからするともう少しメッセージが欲しい。コロナ禍で困難な状況だというのは理解するが、今後どのような対応を行っていくかということがもっと読み取れればと思った。</p>
<p>委員</p>	<p>観光振興・宣伝事業について、デジタルサイネージを活用したと説明があったが、どれだけ効果があったのか説明をしてほしい。 また、観光振興戦略を確認したが、ウェルネスという言葉がキーワードとなっており、どういった取組を考えているのか。</p>
<p>宝のまち創造室長</p>	<p>デジタルサイネージは、我々も初めての取組であり、緊急事態宣言の発出やGo Toキャンペーンの停止もあった。成果が見えにくい状況もあり、今年度は新たな策を考えている。これまでのキャンペーンのように宝塚歌劇の協力も得て、リモート形式で何か行いたいと考えている。 今年度から取り組んでいる観光戦略については、「ウェルネスを実現するまち、たからづか」をコンセプトに、宝塚の魅力「まちの宝」を磨いて掘り起こしていくという事業を進めているところである。市内で地道に事業をされている方々に、横のつながりをもっていただくため、ワークショップを開催しながら、その方々と小さなものを大きなプログラム、番組として育てていきたいと考えている。資源を一つのストーリーとして作り上げていくことを、ウェルネスをキーワードに取り組んでいきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>フラワー都市交流事業について、去年は実施できなかったということだが、実施した場合どのような効果があるのか。市内の山本地区には植木屋がたくさんあり、民間・市民の力は他市に比べて相当あると思う。自治体同士の交流の場ではなく、市民や事業者が考え交流できるような場に変えることはできないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>大変申し訳ないが、担当室長が今回出席していないため、事務局で確認し、後日回</p>

	<p>答させていただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>何故そういうことになるのか。釈明を求めたい。審議してほしいと言っておきながら答える人がいないということはこれまでなかった。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局の方で、その日の審議対象施策に合わせて調整を行ったところである。申し訳ないが次回回答させていただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員会軽視であるということを申し上げたい。これ以上は結構である。次回はまとめを行うのに、その際に回答されてもどうかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>可能な範囲でお答えさせていただきたい。フラワー都市交流事業については、交流しているのは市だけでなく、市民や事業者も現地に赴き交流する事業になる。市はコーディネーターの役割である。</p>
<p>委員</p>	<p>交流しているのが市民や事業者であることは理解しているが、企画しているのが市だと思うので、市民が自由にできるよう、企画段階から市民が関わっていけるようにしたらどうかという提案であった。自治体に関わるにはそれなりの意義があると思うので、市民ではなく市が企画を行う効果や、市が企画する必要性を教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>主に企画しているのは市だが、現状としては、担当課が直接事業者とコミュニケーションを取りながら、どういったことが可能なか組み立てているので、一定事業者の意見も取り入れていると聞いている。協議の段階から市民・事業者に参加していただくことも必要かと思うので、担当の方に伝えたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>宝塚魅力体験事業について、今年度は実施しないということだが、次年度は再開するのか、それとも事業の見直しを行うのか。</p>
<p>宝のまち創造室長</p>	<p>市民の観劇については宝塚歌劇の協力が必要である。次年度以降については未定だが、市も費用負担を行っているため、慎重に協議を行い判断していきたい。 市民との事業についても、昨年度8つの企画をしたが実施できたのは2つだった。しかし、その2つの企画に多くの応募があったため、たくさんの方がご参加いただけなかった。活動しないことで組織が弱くなってしまうため、そのことに注意し、市民の協力を得ながら取り組んでいきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>この事業は地方創生に関係し、市独自の事業でもあるため注目してきた。ロジックモデルとしては理解できるが結果が出ていないと思う。市民が知らなかった宝塚市の魅力を発見し、それらを掛け合わせて何かを生み出す事業だと理解しているが、魅力を体験することで終わってしまっている。よく化学反応を起こすと言っていたと記憶しているが化学反応は起きたのか。起きていないのであれば、事業の組み直しが必要だと思う。</p>

<p>宝のまち創造 室長</p>	<p>市の大きな資源である宝塚歌劇だが、近くにあっても歌劇を観たことがない方はたくさんいらっしゃると思う。宝塚の魅力を体験していただくことがスタートであり、体験することがその先に繋がっていくことを我々は期待している。体験で留まっているとは決して考えたくないところであり、今後も市民を対象にしていきたいと思っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>これだけ長く事業を行っているのだから、何かが生まれているというエビデンスを見せる必要がある。この事業が宝塚歌劇を観たことがない市民に歌劇を観てもらいたいというものであるのならばすっきりしているが、一方で市が市民に歌劇を見せる必要はないという批判があると思う。何かを生むということと、歌劇を観たことがない市民に歌劇を観せたいということがセットになって必要性と説得力を持ち合わせていた議論であるが、過去、当該参加者が歌劇を観たことがあるかどうかは確認しないと市側は発言していた。この時点で前提が崩れている。何年も取り組んで何も生み出していないのであれば、根本的に組み直す必要があると断じたい。ロジックモデルだけでなく結果の説明がなければ指示はできない。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】観光 【施策展開の方針】『2 観光資源の活性化を図り、まちの魅力を高めます』</p>	
委員	文化創造館や文化芸術センターは指定管理者制度での運営だが、手塚治虫記念館のみ市の直営となっている意義と、3施設の中での手塚治虫記念館の役割は何か。
宝のまち創造室長	世界に誇る手塚治虫先生に敬意を表するという意味で直営となっている。手塚治虫記念館は本市にとって大きな魅力であり、それに次ぐ新たな魅力を文化創造館や文化芸術センターで作っていくことに取り組んでいるところである。
委員	文化芸術センターは本当に魅力的な施設で、文化創造館は外からも集客に向けた取組を行っていることが伝わってくるが、手塚治虫記念館は館の中での取組だけになっているように思う。手塚治虫記念館も外の空間を利用して、屋外を使った集客への取組をリードしていく必要があると思う。
宝のまち創造室長	手塚治虫記念館では、センターができる以前から、周辺の飲食店等にもご協力をいただき、展覧会の内容に関連した企画を実施している。
委員長	特に重要だから市の直営と説明をすると、民営化しているものを軽視していると捉えられてしまうので、いかがなものかと思う。何故直営で運営する必要があるのかというロジックが別に必要である。直営だから可能なことが手塚治虫記念館には必要だと説明するべきであり、説明できないのであれば直営である必要はない。手塚治虫先生は確かに偉大だが古いというのは否めない。これだけの費用をかけて直営で、一般の方に見せるというタイプの記念館は危ういと思う。作品の世界の一部を切り取って見せるという形だったがあれでは弱い。友人や家族を誘っても来てもらえないと思う。資料をより収集するであったり、他の漫画家も含めて漫画文化全体を取り上げたりということをどこかで検討するべきである。手塚治虫先生の作品の一部に触れるということが大半を占めており、必ずしも有効な使い方にはなっていないと私は感じた。
宝のまち創造室長	現在実施している企画展は、手塚先生の作品のサブキャラクターに関する特集となっている。これまでも、昨年度は女性のアニメ作家や過去にはウルトラマン等、コラボレーションした企画展を実施しており、幅広く、手塚作品を基本としながら様々な企画展を手塚プロと進めている。今後も新しいものを取り入れながら館の運営をしてきたい。
委員長	先程の私の発言はターゲットを見直す必要があるという趣旨であった。一般の方に足を運んでもらうことは、手塚作品にオンタイムで触れてきた方は高齢化しており難しくなっている。これからのアニメのクリエイターや漫画家に来てもらうことを視野に入れてはどうか。
委員	観光施設維持管理事業について、以前から指摘していることだが、位置づけが観光として曖昧なので見直す必要があると思う。また、モニュメント等の観光施設につ

<p>委員長</p>	<p>いては定期的に職員による巡回点検を実施したとあるが、素朴に職員が点検する必要があるのか。 またこれも以前から指摘しているが、温泉施設等管理事業、市が温泉を直接管理する必要があるのか。</p> <p>温泉については、しかるべき対価を供給先からいただくべきではないか。再三再四指摘しているところである。市長も変わり、このタイミングでしっかり要求していくべきである。</p>
<p>宝のまち創造室長</p>	<p>モニュメントは宝塚大橋に4体あるが、それだけではなく、市内に点在しているまちかどサインなども職員が点検している。</p> <p>温泉施設であるナチュラルスパ宝塚については、築20年を迎え、市としても投資が必要な時期となっている。市がこのまま直営を続けるのかについて十分に議論を行い、あり方方針として考え方を示したところである。サウンディング調査等で民間の意向を確認してきたが、しばらくの間は現在の指定管理者の運営を継続し、その間に方針に掲げる新たな展開に向けた準備を進めるということで取り組むとしているところである。</p> <p>ダムと噴水については、ダムも老朽化が激しく、修繕が必要となっている。ダムが必要かどうか、ダムを止めることによって噴水にも影響がある。時間がかかるかもしれないが、今後について検討していく段階に入ったと認識している。</p> <p>現在も、温泉源の管理は市が行っている。この委員会や監査からも指摘を受けているが、かつては旅館が100件近くあったが、市が温泉を維持し、宝塚の温泉文化を止めないということが我々の使命だと思っている。色々なご意見があるかと思うが、市で管理をしたいと考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>噴水は必要ないのではないかと。必要なのであれば何を期待しているのかというロジックをしっかりと組み立てなければならぬとこれまで指摘してきたが、そうは思わないと言われ続けて今日に至っている。噴水だけでもやめれば良いのではないかと。</p> <p>泉源維持は市が行えばよく、有馬温泉のようなお湯が出るという価値は否定しないが、しかるべき対価をとるべきだということである。</p>
<p>宝のまち創造室長</p>	<p>噴水は修繕を行わず、現状で運営をしている。ダムがなくなった場合、噴水は止めざるを得ない。噴水はこれ以上の投資は行わずに運営していく予定にしている。</p> <p>温泉源の対価は、現状の金額のままでなければ旅館の負担が大きくなってしまう。旅館の数は少なくなったが、温泉の街を守るということが一番の使命だと考えているため、現状の額でいきたいと考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>水道でもしかるべき対価を市民からとっているのだから、今の状況はおかしいと言わざるを得ない。</p>

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】観光 【施策展開の方針】『3 国内外からの観光客に優しいまちづくりを推進します』</p>	
委員長	<p>海外誘客事業について、観光案内関係の多言語表記については、今の時代に必要なのか疑問である。スマートフォンには翻訳アプリがあり、利用すれば複数の言語に翻訳することができる。多言語表記で、表記がない言語を使用する外国人の方から軽視していると思われる可能性もあると思う。</p>
宝のまち創造室長	<p>英語、韓国語の表記が基本となっており、中国語が加わる場合がある。スマートフォンに必要なWi-Fi環境は、花のみちや主な公共施設には配置しており活用いただいている。</p>
委員	<p>市内を歩いていても、市民目線として、外国人に配慮をおこなったような施策を展開していると感じたことはあまりない。</p>
委員長	<p>評価表には文化芸術センターや宝塚ホテルに関する記載があるが、この細施策のタイトルとなっている「国内外からの観光客に優しいまちづくりを推進」に関する記載が、評価表にはほとんど見られなかったことについては指摘をせざるを得ない。</p>

<p>【基本目標】 観光・文化・産業 【施策】 文化・国際交流 【施策展開の方針】 『1 宝塚市文化財団や文化団体と連携し、総合的に文化施策を展開します』</p>	
委員長	文化芸術センターについては、名前を聞いてもどういった目的の施設なのか想像がしにくいと感じた。
委員	私もそのように感じた。また、今からどうすることもできないとはわかっているが、市の中心地に素晴らしい施設がオープンしたが、センターの周辺にある大型の商業施設の看板や広告が目立っており、エリアの景観として少し残念に思っている。
委員	文化振興事業（文化政策課）について、評価表に、「国の臨時交付金を活用した「文化芸術活動再開支援事業」や「芸術文化公演再開緊急支援事業」を実施し、」とあるが、活用状況はどうだったか。
宝のまち創造室長	70団体ほどにご活用いただいた。
委員	コロナ禍の中、文化芸術センターには、当初イメージしていた利用者層が来館しているのか。
宝のまち創造室長	大きなオープニングイベントも行えずひっそりとオープンし、広く誘客活動が行えないまま現在に至っているが、市外のみならず、多くの近隣住民にも来館いただいております。当初のイメージとおおむね合致している。
委員	他の自治体の方にも文化芸術センターのことを伝えたと、とても興味を示していた。プロに注目されている施設だと思う。しかし、一般市民にはまだ浸透していないと思うので、一般市民も含めたより多くの人にセンターのことが広がるよう取り組んでほしい。
宝のまち創造室長	月に一度だが、「たからの市」と題した朝市を開催しており、新鮮野菜などにのみならず、アクセサリーや小物の販売も行っており、ご近所からも支持されている。これからも、このような取り組みから来場者の輪を広げていきたい。
委員長	プロに注目されるという視点は手塚治虫記念館にも必要である。熱心に手塚治虫の漫画を読んだり、アニメを観ていた人は高齢化している。一般市民ではなく、プロに支えてもらう施設を目指す方針に転換していけばどうかと思う。
宝のまち創造室長	文化芸術センターの名称については、展覧会などの事業やイベント、庭園や緑の感触を実感していただき、よくご理解いただいたうえで、当初、施設のオープン後1年を目途に、愛称を募集する予定をしていたが、そこまでは至っていない。

<p>【基本目標】 観光・文化・産業 【施策】 文化・国際交流 【施策展開の方針】『2 宝塚市国際交流協会と連携し、市民主体の国際交流活動を支援するとともに、多文化共生の地域づくりを進めます』</p>	
委員長	多文化共生のまちづくりを施策展開するこの項目に、手塚治虫記念館管理運営事業がぶら下がる意義はないと感じる。
委員	国際交流事業について、外国人支援事業補助金はどのようなものか。
宝のまち創造室長	外国人市民の居場所づくりなどについては、国際・文化センターだけではなく、他の地域でも取り組まれており、そのような外国人支援を行う団体への補助制度である。国際交流協会は、姉妹都市との市民交流の窓口となるために設立されたものではあるが、ここ数年、姉妹都市交流よりも多文化共生社会の実現にシフトしている。また、国際交流協会以外に、外国人市民の支援に力を入れる団体が増えている。
委員	個人ではなく団体への補助ということによいか。
宝のまち創造室長	その通りである。
委員	西宮の芸術文化センターで演奏している外国人の方にも、文化芸術センターで演奏してもらえないのか。
宝のまち創造室長	それらの方々とは、国際・文化センターで日本語学習をされていたことがご縁で、ここ数年「サマーコンサート」として、公民館等で演奏を披露していただいている。今後、文化芸術センターでも演奏してもらえないか検討していきたい。
委員長	コロナ禍の外国人支援はどうだったのか。
宝のまち創造室長	緊急事態宣言により、国際・文化センターも臨時休館となったが、その間も、電話ではあるが、通常時と同じように相談できる体制を維持してい。また、センターのホームページでは、県からの案内にはなるが、情報が得やすいように環境を整えていた。

<p>【基本目標】観光・文化・産業 【施策】文化・国際交流 【施策展開の方針】『3 市内に多く残る文化遺産の保全継承と活用に努めます』</p>	
委員長	<p>市内にある文化遺産を残す必要があることには同意する。しかし、入館者数が減少しており、人件費や文化財の保護に費用がかかっている。このような費用をかけて保存していく必要があるのか。費用対効果の面で疑問があり、有効活用されていないと感じる。</p> <p>また、歴史民族資料館は土地の利用価値が高いと思われる住宅地のところもある。住宅地に温存する必要があるのか。人の常駐の効率化を図るためにも、集約のため移築を検討するべきではないか。北雲雀さずきの森は候補地だと思う。</p>
生涯学習室長	<p>文化財の保護に一定の費用は必要である。また、費用対効果で考えることが適切だとは考えていない。その中でも費用を抑えるため、職員は会計年度任用職員を配置しており、文化財についても、寄附のお話があった際には、例えば、民具等では、審議会の委員である大学の教授に意見を仰ぎ、保存するか決定している。すでに阪神間で保存されているものは保存しなくても良いと意見をいただく時もある。</p> <p>資料館の移築については、現在小浜などの地域にある資料館や旧山中邸は景観も含めてその地域にあることに意味があるので、集約の為に別の場所に移すことは難しいが、過去には、旧東家住宅を宝塚自然の家内に移築したことがある。</p>
委員	<p>文化財保護法の改正により、文化財保存活用地域計画の作成が補助金の獲得に繋がるようになった。補助金の獲得についてはどのように考えているか。</p>
生涯学習室長	<p>今お話があった方法での補助金は具体的に検討できていないが、国や県、民間からの補助金については情報収集し、活用できるものは積極的に獲得できるように取り組んでいる。</p>
委員	<p>私もこの事業の費用対効果を来館者数だけで考えることは適切ではないと思っているが、集客のための取組だけでは限界がある。調査研究に積極的に取り組み価値を深めるアクションが必要である。また来館の予約制の導入も検討してほしい。</p>
委員長	<p>総合評価が現状維持となっているが、指標である歴史民俗資料館入館者は減少しており、例年集客に取り組むと聞いているが実態が見えない。集約化など抜本的な取組が必要であるため、総合評価も「推進に向けて対応策をとる」が適切である。</p>

その他

政策推進担当
課長

<次期評価制度について説明>

委員長

丁寧に説明いただき、わかりやすかった。しかし、制度としては大きな問題があると言わざるを得ない。
以下の点を指摘したい。
これまで、次期総合計画での評価制度について委員会に意見を求め、課題として認識していたにも関わらず、現時点でこの程度しか決まっていないことは問題である。
評価表を提示されていないため、説明を受けた仕組みが機能するのか、意義があるのか判断のしようがない。
総合戦略で、適格な指標が設定できるのか。
総合戦略有識者会議は、政策形成を行う機関。質の評価を行うところではない。
施策・事業の自己評価の質の担保を総合計画審議会や総合戦略有識者会議に求めることは無理がある。
今年の3月に委員会廃止の連絡を事務局から受けたのだが、その時の説明から進んでいない。これまで何をしてきたのか。

政策推進担当
課長

全く手をつけていないことは決してないが、実施計画の仕組み等、先に決めるべきことがあり、そちらを優先して検討をしてきた。

委員

この委員会でも、審議時間が短く、委員長が運営を工夫して進行しているのに、有識者会議で十分な議論ができるのか。この委員会と同じ機能を付加するのであれば、今と同様の労力があるのではないか。

委員長

宝塚市ぐらいの規模であれば常設の外部評価があって当然である。

委員

市から説明があったことの気持ちがわからないことはないが、委員長がおっしゃる通りだと思う。宝塚市よりも人口が少ない自治体であれば、有識者会議と一体にして行っているところもあるが。

委員

様々な考えがあると思うが、評価される側の立場から考えた場合、すべての事務事業を網羅的に評価されるならば自分たちのことを深く理解した者に評価されたいと考えると思う。そうでない者から評価されたり、全ての事業を評価すると言われたら「何もわかっていない」と思うのは仕方がないことだと思う部分もあり、そのようなジレンマを感じながらこれまで指摘をしてきた。
今回の評価表を見ても、市側からすれば事情があるのだろうが、前回とほとんど変化がない。途中から指摘しても仕方がない、正直可哀そうな気持ちにもなった。

委員長

行政評価委員会の事務まで手が回らないから廃止するというのが本音ということだろうから、PDCAがどうか無理矢理理由を作らずに、はっきりとそのように言ってほしい。

答申書については、10年間を振り返る中で、今年度指摘してきた問題点を記載していく。事務局は書きづらいと思うが、そのように調整するように。

閉 会

委員長

では、本日の審議を終了する。事務局より、次回の委員会の日時、審議内容等について、説明をお願いします。

事務局

次回（第6回）の委員会は9月17日（金）13：30～16：00で開催する。
審議は実施せず、今年度のまとめを行う。
現時点では、市役所3-3会議室で委員の皆さまにお越しいただき開催する予定だが、緊急事態宣言の状況によってはリモートでの開催も検討する。